

国内産農産物銘柄設定等に係る意見聴取の議事録

1 開催日時 令和7年12月18日（木曜日）13時20分～14時30分

2 開催場所 東北農政局山形県拠点2階大会議室

3 出席者

（学識経験者）

山形県農業総合研究センター土地利用型作物部開発研究専門員 川崎 聡明
（県）

山形県農林水産部県産米戦略推進課作物振興専門員 小形 恵美
（生産者団体）

全国農業協同組合連合会山形県本部米穀部米穀総合課調査役 大島 伸哉
山形県米穀集荷協同組合業務課長 結城 友靖
（実需者団体）

株式会社ジェイエイトンドーフーズ営業本部営業部営業一課
シニアマネージャー 堀 豊

（登録検査機関）

一般財団法人日本穀物検定協会東北支部山形出張所長 小林 茂生
（申請者）

山形県農林水産部長（県と兼務）

（東北農政局）

生産部生産振興課上席農政業務管理官	千葉 誠
生産部生産振興課検査技術指導官	増子 竹美
山形県拠点地方参事官室（需給調整）総括農政業務管理官	高橋 康典
山形県拠点地方参事官室（需給調整）行政専門員	笠原 一志

4 開会

【東北農政局：高橋総括農政業務管理官】（以下「司会者」という。）

只今から「国内産農産物の銘柄設定等に係る意見聴取会」を開催いたします。なお、本日の議事の内容につきましては、国内産農産物銘柄設定等申請手続マニュアル第3の2に基づき、議事録を東北農政局のホームページに公開させていただきますので、あらかじめご了承ください。

5 あいさつ

【東北農政局：千葉上席農政業務管理官】（以下「千葉上席」という。）

6 意見聴取

(1) 銘柄設定の概要及び申請状況について

【東北農政局：増子検査技術指導官】(以下「増子指導官」という。)

資料 No.1「農産物検査に関する基本要領等」抜粋により銘柄設定等の概要を説明。

資料 No.2「国内産農産物銘柄設定等に係る申請状況一覧」により申請状況を説明。

(2) 申請内容について

【山形県：小形作物振興専門員】(以下「申請者」という。)

申請 No.1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米「ゆきまんてん」の銘柄の設定等申請書により申請理由を説明。

(3) 申請銘柄の確認について

【司会者】

それでは、今回設定申請がありました「ゆきまんてん」の確認をしていただきたいと思います。窓側のテーブルに展示しておりますので、順次ご確認をお願いします。

(4) 意見聴取について

【司会者】

ご確認いただきましたでしょうか。

それでは、これから意見聴取に入りたいと思いますが、ここからの進行は千葉上席が行います。

【千葉上席】

この意見聴取会を行うにあたって、国内産農産物銘柄設定等申請手続マニュアルによると「有識者等の同意により、申請者を意見聴取の場に同席させることができる。」となっておりますので、このまま申請者の方に同席のまま、意見聴取を進めたいと思いますが、皆様よろしいでしょうか。

(出席者から、異議なし。)

【千葉上席】

ありがとうございます。

それでは、意見聴取に入らせていただきます。

はじめに、「ゆきまんてん」についてのご意見・ご質問等ございませんか。

ご意見等がでないようですので、私から学識経験者であります山形県農業総合研究センターの川崎様にお聞きします。「ゆきまんてん」の試験栽培等をされていると思いますので、特徴などを教えていただければと思います。

【山形県農業総合研究センター：川崎開発研究専門員】（以下「川崎専門員」という。）

現在、基本的な栽培指標を作成しておりますが、品種の特徴として、同じ施肥レベルで「はえぬき」よりも確実に多収であるところが大きな特徴となっております。

稈長が「はえぬき」よりも少し伸びる特性があり、肥料を多くすると、稈長が伸びて降伏するリスクがありますが、「ゆきまんてん」は収量に掛かるコストが抑えられ、農家の方にも非常にメリットがある品種だと見ています。また、「はえぬき」よりも高温耐性が1ランク強く、今年産のサンプルを見ても「はえぬき」よりも白未熟が少なく品質も良くなっています。

農家さんに「ゆきまんてん」は期待されていますので、計画どおり県に進めていただき、メジャー品種になるように私も協力していきたいと思います。

今回の申請に対して異議はありません。

【千葉上席】

ありがとうございました。

先ほど県全体として作付けを広げていくと、申請者様から説明があったのですが、従来の品種からの切り替えはいかがでしょうか。

【申請者】

品種の切り替えについては今検討中ですが、令和5年産米は「はえぬき」の1等米比率の低下が非常に問題となりまして、やはり高温耐性の強い品種の導入を進めていくことが、現場の要望でもあります。今回、奨励品種として「ゆきまんてん」を採用し、普及拡大を図る方針になっています。

【千葉上席】

ありがとうございます。

本格デビューに向けて、「ゆきまんてん」の栽培を拡大していくとのお話ですが、生産者団体の皆様から、ご意見をお聞かせいただきたいと思います。最初に全農山形県本部の大島様お願いします。

【全国農業協同組合連合会山形県本部：大島調査役】（以下「大島調査役」という。）

管内のJAとの意見交換の中で、刈取時期の幅に関する意見が多くありました。現在「はえぬき」と「つや姫」を生産していて、同じ中生の品種ですが、「はえぬき」は刈り取り幅に余裕があって、「はえぬき」を刈り始め「つや姫」を間に入れて「はえぬき」に戻っても、まだ品質的に問題がない。「はえぬき」並みの刈り幅があるのかが、生産者が心配している点です。

販売の方からは、「はえぬき」は優秀な品種で収穫量も多く、その信頼度が高く評価されています。また、加工用に適性があり業者からの信頼があるので、加工用への適性が「はえぬき」に代わるポイントと考えています。ただ、高温耐性があ

ることが生産現場では一番なので、スムーズな品種の切り替えが大事だと思います。

【千葉上席】

ありがとうございました。

続きまして、山形県米穀集荷協同組合の結城様お願いいたします。

【山形県米穀集荷協同組合：結城業務課長】

「はえぬき」から「ゆきまんてん」への転換が一番の課題だと思います。「ゆきまんてん」は美味しい良いお米だと思いますが、米の値段が高い中でも、生産者は備蓄米、加工用米、飼料用米とか様々な選択肢の全てに「はえぬき」が使われている。そういった品種なのか「雪若丸」のようなブランド感の品種なのか、どう推進するのか。また、奨励品種が増えますがどう生産者に配分するのか気になるところだと思います。

【千葉上席】

ありがとうございました。生産者団体様からご意見があった、収穫時期の幅と加工適性について、川崎様、ご発言をお願いします。

【川崎専門員】

刈り取り適期幅は、年次変動等も含めて確認中ですが、移植時期を変えて栽培すると出穂時期を「はえぬき」並みにずらせることが可能だと見えています。また、加工適性というか業務用向け等については、これからになります。

【千葉上席】

ありがとうございます。山形県米穀集荷協同組合様からありました、令和9年の本格デビューについて、すでに生産者への配分に関心があるとのことですが、県の小形様なにかありましたら。

【申請者】

今年度と来年度は、デビュー前ということで、県内各地で現地実証圃という形で栽培試験を予定しておりますが、令和9年のデビュー時には、作付面積は概ね700ヘクタールを見込んでおります。また、加工用米向けであったり、様々なニーズに対応できるお米として普及したいと考えております。

【千葉上席】

ありがとうございます。本格デビューに向けて、種子確保の計画も立てていることでよろしいでしょうか。研究センター様。

【川崎専門員】

はい、「ゆきまんてん」の原種の準備も研究センターで進めています。

【千葉上席】

ありがとうございます。

日本穀物検定協会の小林様にお聞きます。先ほど「ゆきまんてん」の試料を確認していただいたところですが、検査機関として銘柄の鑑定にあたりお気づきの点等がございますでしょうか。

【日本穀物検定協会：小林出張所長】

毎年、研究センターで試験された米の品位を見ています。「ゆきまんてん」はお母さんが「雪若丸」ということもあり、「雪若丸」と「はえぬき」の中間のお米で粒形的には結構大きいと見ています。銘柄鑑定については問題ないと思っています。

【千葉上席】

はい、銘柄鑑定について問題はないとの発言をいただきました。

それでは、需要者側の立場からジェイエイトんどうフーズの堀様ご発言をお願いします。

【ジェイエイトんどうフーズ：堀シニアマネージャー】（以下「堀マネージャー」という。）

この計画を見ますと、令和9年産本格デビューで700ヘクタール4,620トンと一気に増やすようですが、現在、「はえぬき」が約6割、「つや姫」、「雪若丸」を合わせて約90%になります。これに「ゆきまんてん」がデビューすると「はえぬき」が減るような形になると思います。県内のスーパーでは4銘柄とも受入れられると思いますが、県外のスーパーでは至難の業です。「つや姫」は高級ブランド米として残るが、「雪若丸」は発展途上、そこに「ゆきまんてん」が入り込むのは難しいと思います。

また、「はえぬき」は今年の猛暑で品質の低下が見込まれましたが、一等比率90%となったことで「はえぬき」から「ゆきまんてん」への転換はスムーズにはいかなくなると思います。高温耐性、多収性、低コストの部分をもどく様に生産者の方にアピールして転換していくのかお聞きかせください。

なお、業務用での使い勝手の良さがポイントになってきますので、そこも専門機関に依頼しているとは思いますが、当社としても「ゆきまんてん」の普及を考えていきたいと思っています。あとは価格ポジションが難しいと思いますが、そこは精一杯協力させていただきたいと思っています。

【千葉上席】

貴重なご意見ありがとうございます。全農山形の大島様、県外の販売に関してご意見があれば。

【大島調査役】

やはり4品種は売り切るの難しいと思います。また、「はえぬき」は絶大な信頼があるので「ゆきまんてん」に代えて販売をと考えると難しい。生産面では「ゆきまんてん」に切り替える場合、種子圃場やカントリーエレベーターが、4品種に対応できないと思います。現実問題、課題はあるのは間違いないと思います。

【千葉上席】

ありがとうございました。

「ゆきまんてん」は高温耐性品種でもあり、農業者や実需者が選択できる幅を増やすということも含めて、増やしていく形になるのでしょうか。

【申請者】

現在、全農さんや米集さん農協の皆さんから、ご意見を伺っているところですが、生産面の課題として、「つや姫」と「雪若丸」のブランドが確立している中で「ゆきまんてん」をどこに位置付けるのか、4品種というところも、ご意見をいただいています。県としては2月に向けて方針を決定することになりますので、現場の皆さんに寄り添った形で普及を進めていければと考えております。

【千葉上席】

ありがとうございます。他に何かご意見ございませんでしょうか。

【堀マネージャー】

昨今の温暖化で、高温耐性の品種で「にじのきらめき」が北関東を中心に増えてます。今後、県内でも「にじのきらめき」が普及拡大して、「ゆきまんてん」が銘柄設定されても「にじのきらめき」あたりと戦っていくのかと、余計な心配をしています。

【千葉上席】

ありがとうございます。高温耐性品種の選択肢としてはいかがでしょうか。

【申請者】

山形県オリジナル品種ということで、山形県は「つや姫」、「雪若丸」と高温耐性品種が2品種あります。そこにプラスもう1品種は必ず必要だと考えておりますが、そこは県で育成した品種を中心に普及拡大をしていきたいと考えております。

【千葉上席】

ありがとうございます。

ご意見が出尽くしたようですので、この意見聴取会として「ゆきまんてん」を産地品種銘柄に設定することに特段の異議がないということでよろしいでしょうか。
(出席者から、異議なし。)

(5) まとめ

【千葉上席】

本日は皆様からご意見を頂戴しました山形県における国内産農産物の銘柄設定申請について取りまとめさせていただきます。

山形県農林水産部長様から申請のありました「水稻うるちもみ・水稻うるち玄米」の「ゆきまんてん」につきましては、産地品種銘柄の設定要件をすべて満たしており、産地品種銘柄として設定することに特段の異議はないという意見聴取会の結果を農林水産省農産局長へ報告いたします。

なお、「ゆきまんてん」が産地品種銘柄に設定されたときは、「選択銘柄」として設定されることになります。

本日はご出席いただきました皆様に、熱心にご議論いただきましたことに感謝を申し上げまとめさせていただきます。

7 閉会

【司会】

長時間にわたり熱心なご議論をして頂きまして、ありがとうございました。

以上を持ちまして、「国内産農産物銘柄設定等に係る意見聴取会」を終了致します。